

## 令和5年産水稻の作況調査結果と当面の技術対策

技術支援課  
(普及指導室)

生育ステージ	早期：収穫終期 早植：黄熟期～収穫期 普通期：乳熟期～糊熟期
生育概況	早期：「コシヒカリ」の成熟期は平年より4日早まった。白未熟粒や胴割粒の発生で品質は平年より劣り、収量は平年並～やや少ない傾向。 早植：「コシヒカリ」「ひとめぼれ」の成熟期は平年より7～10日程度早まった。穂数は平年並に確保されているが、北部地域でやや少ない。高温の影響による白未熟粒、胴割粒の発生で品質の低下が見込まれる。 普通期：「あさひの夢」の出穂期は平年より2日程度早まった。穂数は平年並～やや多い。

## 1 気象経過（前橋地方気象台の気象データ、9月は第3半旬までのデータ、参考資料参照）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
気温(平年差)	+1.8℃	+0.5℃	+1.2℃	+2.9℃	+2.6℃	+4.9℃	—
降水量(平年比)	53%	106%	184%	41%	65%	33%	—
日照時間(平年比)	115%	110%	111%	159%	124%	62%	

## 2 生育概況

## (1) 概要

## ア 早期・早植栽培（6月15日以前の田植）

早期栽培「コシヒカリ」の出穂期、成熟期はともに平年より4日程度早まり、収穫は98%程度のは場で完了している。出穂後の高温等の影響で白未熟粒や胴割粒が見られ、平年より品質が下がる見込み。収量は平年並～やや少ない傾向。

早植栽培「コシヒカリ」「ひとめぼれ」の生育ステージは黄熟期～収穫期となっている。出穂期は、平年より3～5日程度早く、成熟期も7～10日程度早い。穂数は概ね平年並で確保されているが、北部地域でやや少ない傾向となっている。7月、8月で少雨で経過したことから、用水が足りない一部ほ場では青立ちや不稔粒が発生した。

「あさひの夢」の生育ステージは乳熟期～糊熟期で、出穂期は平年より2～3日程度早く、成熟期も早まる見込み。穂数は概ね平年並確保されている。高温の影響で白未熟粒等の発生や刈り遅れによる品質への影響が懸念される。

## イ 普通期栽培（6月16日以降の田植）

「あさひの夢」の生育ステージは乳熟期～糊熟期。高温で経過したことから、出穂期は平年より2日程度早まった。穂数は平年並～やや多くで確保されている。

(2) 病害虫・障害等の発生状況

ア 早期・早植栽培

病害虫は紋枯病、内穎褐変病が多く、中山間地域の一部で斑点米カメムシ類、県東部、北部地域でバッタ類（クサキリ、ササキリ、イナゴ等）がやや多い。9月上旬以降の降雨で、倒伏が見られている。高温の影響で白未熟粒（乳・心白粒、背白粒、基白粒）、胴割粒の発生が多い。

イ 普通期栽培

病害虫は紋枯病、内穎褐変病が多く、平坦地域の「あさひの夢」「群馬糯5号」でもみ枯細菌病がやや多い。出穂期以降高温が続いているため品質への影響が懸念される。

(3) 作況ほ等の調査結果等

ア 作況ほの調査結果（表1参照）

県平均の出穂期は8月14日（平均比-3日）であった。出穂後15日の穂数は387本/m<sup>2</sup>（同102%）、籾数は29,248粒/m<sup>2</sup>（同99%）であった。

イ 農業技術センターの生育基本調査結果

(ア) 稲麦研究センター（6月23日移植）

「ゆめまつり」の出穂期は8月26日（過去10カ年平均比-4日）であった。

(イ) 東部地域研究センター（6月1日移植）

「ゆめまつり」の出穂期は8月18日（過去11カ年平均比-1日）であった。

表1 水稻作況ほ調査結果（地域別・作期別）（ ）内は平年比

調査項目 地区	移植期 月/日	移植後40日調査		出穂期 月日	出穂後15日（暫定）		
		草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>		カ所数	穂数/m <sup>2</sup>	籾数/m <sup>2</sup>
県	6/9(0)	65(103)	461(104)	8/14(-3)	12/15	387(102)	29,248(99)
中部	6/15(0)	62(99)	442(104)	8/17(-3)	3/4	386(103)	30,179(103)
西部	6/8(-3)	64(98)	438(99)	8/13(-4)	3/4	390(103)	31,267(95)
北部	5/22(+2)	46(98)	525(102)	8/3(-3)	4/4	387(96)	25,709(93)
東部	6/10(+2)	73(110)	471(109)	8/14(-1)	2/3	383(109)	31,901(112)
早期・早植	5/28(+1)	56(101)	500(104)	8/4(-3)	9/10	400(103)	28,635(101)
普通期	6/21(-1)	67(99)	412(100)	8/25(-3)	3/5	358(98)	31,086(95)

注1) 県の平均値は加重平均（データが揃っていない項目は算術平均）、地区、作期別の平均値は算術平均とした。

2) 移植期欄の（ ）内の「-」は早い、「+」は遅いを示す。

3) 出穂15日調査結果は、調査時期となったほ場のみで、カ所数欄は「調査カ所/設置カ所数」を示す。

4) 早期・早植：6月15日以前の田植。普通期：6月16日以降の田植。

5) 館林市は移植時期が大幅に遅れ、ほ場が変更となったため、県、地区、作型平均から除外した。

(4) 作柄のまとめ（表2）

各地域の作柄は、中部「並」、西部「やや良～並」、北部「並～やや不良」、東部「並」であり、県全体では「並」が見込まれる。

表2 地帯別作柄概況 ( )内は普及指導課・地区農業指導センター

地域別	作柄	作 柄 概 況
中部 (中部) (渋川) (伊勢崎)	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>早植栽培：黄熟期～収穫期。出穂期は平年より4～5日程度早まり、成熟期は平年より7日以上早まっている。9月上旬以降の降雨で倒伏が目立つ。高温の影響による白未熟粒の発生が懸念される(中部、渋川)。</li> <li>普通期栽培：乳熟期～糊熟期。出穂期は平年より2～3日早まった。出穂後も高温で経過しているため品質低下が懸念される(中部)。出穂期および9月上旬の風雨の影響でもみ枯細菌病や籾ずれが発生している(伊勢崎)。</li> </ul>
西部 (西部) (藤岡) (富岡)	やや良 ～ 並	<ul style="list-style-type: none"> <li>早植栽培：黄熟期～成熟期。高温により成熟期は7日程度早まっている。穂数は平年並～やや多い。紋枯病や内穎褐変病、斑点米カメムシ類が多く、9月上旬の風雨により倒伏が見られる(西部)。高温の影響により不稔籾が見られ、白未熟粒の発生も懸念される。</li> <li>普通期栽培：糊熟期～黄熟期。出穂期は3日程度早まり、成熟期は7日程度早まる見込み。穂数は並～やや多い(西部)。紋枯病や内穎褐変病、もみ枯細菌病(藤岡)が多い。</li> </ul>
北部 (吾妻) (利根) (沼田)	並～ やや 不良	<ul style="list-style-type: none"> <li>早植栽培：黄熟期～収穫期。出穂期は2～4日程度早まり、成熟期は5～8日程度早まる見込み。穂数はやや少なく、穂長も短い。内穎褐変病やバクテリア類が多く、穂もちや稲こうじ病も散見される。高温の影響により白未熟粒や胴割粒の発生が懸念される(吾妻)。9月に入り倒伏が散見されている(利根)。</li> </ul>
東部 (東部) (桐生) (館林)	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>早期栽培：成熟期。出穂期、成熟期ともに4日程度早まった。収量は平年並～やや少なく、高温による白未熟粒等が多いため平年より劣る見込み(館林)。</li> <li>早植栽培：糊熟期～収穫期。「コシヒカリ」「ひとめぼれ」出穂期は平年より4～5日程度早まり、成熟期は7～9日程度早まった。収量は平年並が見込まれ、白未熟粒が多いものの2～3等が見込まれる。「あさひの夢」は移植の早いもので白未熟による規格外の発生が懸念される(東部、館林)。穂数は平年並で、収量は平年並が見込まれる(館林)。紋枯病、バクテリア類が多く、中山間地の一部で穂もち(桐生)が散見。</li> <li>普通期栽培：乳熟期～糊熟期。出穂期は2～3日程度早まった。穂揃いが良く、成熟期は平年より5～7日程度早まる見込み。穂数は平年並。高温による品質低下が懸念される(東部)。紋枯病、内穎褐変病が平年より多い。</li> </ul>

### 3 技術対策

- (1) 落水までは間断かん水を徹底し、根の活力維持を図る。落水は出穂後30日以降を目安とし、その後、土壌が乾く場合には、必要に応じて走り水を与える。
- (2) 台風襲来時やフェーン現象などの高温・乾燥の強風時は、風が止むまで深水管理とする。
- (3) 登熟状況を確認して適期収穫を徹底する。適期の判定は、出穂期後の積算気温、帯緑色籾歩合、籾水分などにより総合的に判断し、刈り遅れのないようにする。
- (4) 倒伏した場合は、速やかに排水し、成熟状況を見て早めに収穫する。収穫期に穂発芽等が認められる部分は可能な限り別収穫とし、品質低下を防止する。
- (5) 自脱型コンバインによる収穫作業は、籾の損傷軽減や作業能率の向上のため朝露が消えてから開始する。脱穀籾は変質しやすいため、収穫後は速やかに乾燥作業に移す。
- (6) 胴割粒などの発生を防止するため、高水分籾の急激な乾燥や過乾燥は避け、乾燥機の毎時乾減率をやや低め(0.8%/時以下)に設定する。
- (7) 架干し稲については、乾燥中の気象条件によっては穂発芽や胴割粒が発生することがあるため、乾燥後は速やかに脱穀する。
- (8) 調製は必要に応じてふるい目を使い分け、選別機の処理能力以上の粗玄米を流さないよう丁寧にを行い、整粒歩合の向上を図る。稲こうじ病や斑点米が多い場合は出荷物へ混

- 入しないよう特に丁寧に調製し、可能であれば色彩選別機を活用する。
- (9) イネ縞葉枯病対策および地球温暖化防止の観点から、収穫後は早めに耕起し、ひこばえを残さないようにするとともに、ワラの腐熟促進を図る。
- (10) 農薬等の使用状況の記帳確認を行う。

《参考資料》

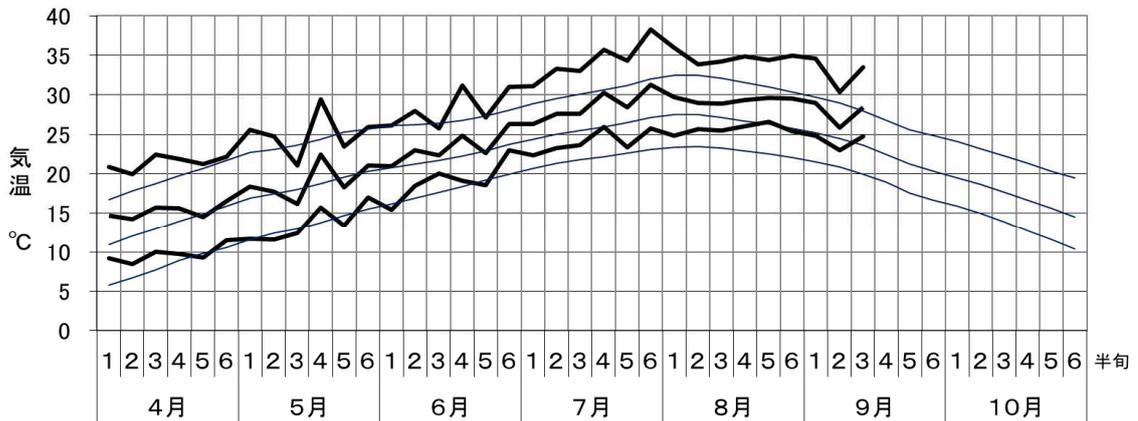


図1 気温

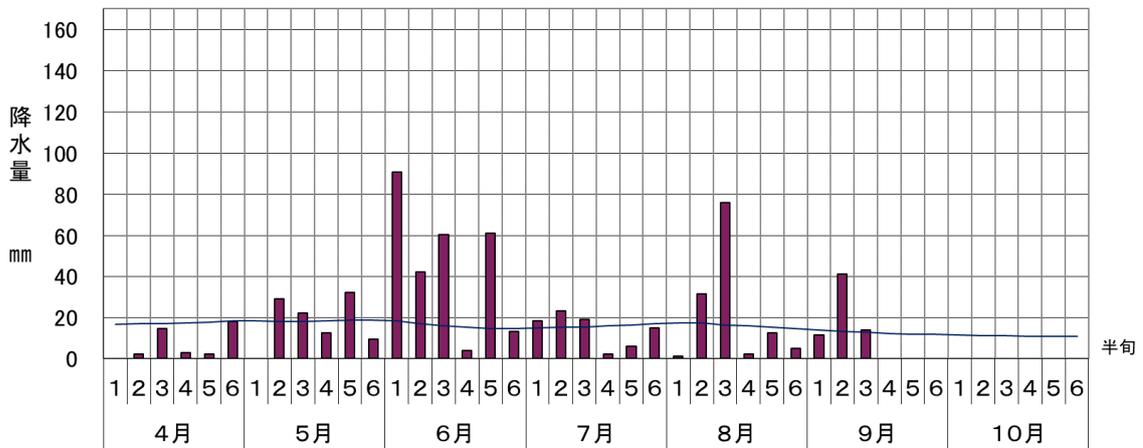


図2 降水量

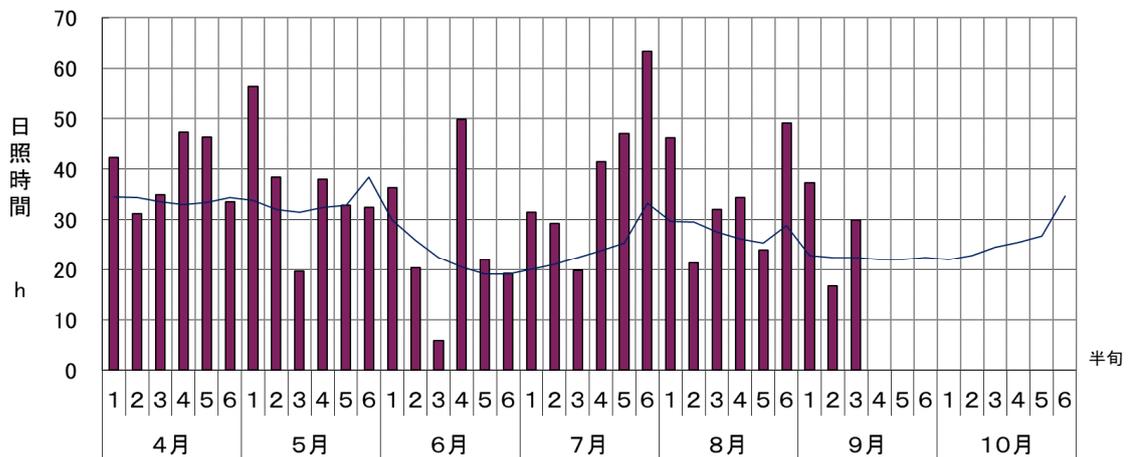


図3 日照時間

